

戍兵の對峙

塔爾奇城

惠寧城

熙春城

寧遠城即
ち固爾札

本道上に在るを呢堪下倫ニカンカリンと呼ぶ。相距る共に七八百米突、河水淺く隨所に徒涉し得べし。而して本道以北は、左岸清領は以て右岸を(露領)を瞰制すべく、以南は之と相反對せり。

塔爾奇城タルチは、綏定城の西五里、其地を塔爾奇と稱す。乾隆二十六年の創築にして城壁高さ丈餘、周圍十町餘、回亂後修築を加へざるが故に、今は野草芊々、山禽聲憐れに、唯々一寒村の狀態を留むるのみ。

惠寧城ホイニンは、綏定城の東約十里餘、其地を巴彥臺と稱す。城は乾隆三十五年の創築に成り、城壁高さ一丈四尺、周圍約一里、往時は滿營兵の駐屯せし處繁盛の都會なりしも、同治の亂、滿兵二千、人民三萬餘、擧て回匪の爲めに虐殺せられ、爾後復た舊に復せず、現今、城外約六十戸の纏頭を見るのみ。

熙春城シチュンは、惠寧城の南方約一里、城盤子に在りて、乾隆四十二年の創築に係り、城壁高さ一丈、周圍十餘町、人家約五十、馬隊一旗の駐屯するもの有り。

寧遠城ニョワンは、熙春城の南約一里、伊犁河の右岸に位置し、露人は其地を固爾札クルジャと稱へ、清人は又金頂寺チンジンズと曰ふ。城壁高さ一丈六尺、周圍二十餘町、東西南北の四門を置き、